

1 取組の概要及び成果

(1) 取組の概要

平成19年1月22日(月)～26日(金)までの4泊5日を寄宿舎型の体験学習を行った。

- 22日(月)15:00学校発、青年の家着後、入所式を終え勾玉づくりを行う。
- 23日(火)1日青年の家での活動。野外炊飯、ウォークラリー、星座観察会。
- 24日(水)8:30青年の家発、5校時目まで学校にて普通授業、夜は青年の家にてナダレンジャーの実験教室(雪崩、液状化現象の模擬実験)。
- 25日(木)8:30青年の家発、5校時目まで学校にて普通授業、夜は青年の家にて学級ごとにエンカウンター実施。
- 26日(金)青年の家にて奉仕活動。退所式後登校、学校にてまとめの集いを行い、解散。
- 2月26日(月)学年末PTAで保護者と共に振り返り活動を行う。

(2) 特に工夫や配慮をした事項

- 本学年は、生徒の実態をふまえ、入学当初から5分前行動と集団行動・学習訓練の徹底を全教育活動の中で推進してきたが、昨年マスコミをにぎわせたいじめ問題や1学年終盤に見られる「慣れによる集団行動の乱れ、友人関係、グループ構成の変化等の要因から生活にひずみが見られる時期となっていた。この時期に5日間の宿泊体験学習の全ての活動を通して、本学年で取り組んできた規律ある生活や集団生活だからこそ必要となる「協力し合うこと」を見直し徹底させることでお互いの「良さ」を再確認し、友情を深め、友達同士の絆とクラスの絆を深めることを本活動の指導の柱とし、下の6項目を徹底していくこととした。
 - ・生活のルールの作成と順守(学級会－学年委員会)
 - ・協調・協力(わがままを言わない)
 - ・部屋長・係の打合せで「活動－評価－反省－明日の課題の設定」のサイクル学習の実施
 - ・5分前集合の徹底
 - ・全体行動時の集団行動の徹底(集合、整列、人員点呼、聞く・活動のめりはり)
 - ・挨拶・返事の徹底
- 冬期の実施ということを考え、生徒の健康管理を優先することにした。風邪やインフルエンザの流行に配慮し、防寒着の準備、消毒液の設置、マスクの着用、室内の湿度の管理、予防接種の呼びかけ等を行った。体調不良でリタイヤした生徒は2名であった。
- 冬期ならではの活動をと考え、星座観察会を行った。当日は天候にも恵まれ月のクレーターまではっきりと見ることができた。また、防災研究所の職員(ドクターナダレンジャー)を講師に迎え、雪崩の発生の仕組みと液状化現象の模擬実験教室を行った。どこにも出もある小さな道具で雪崩と液状化現象をわかりやすく説明してもらった。我々教師も夢中になるほど魅力ある実験教室だった。

(3) 成果等

- 宿泊体験学習で得たもの(アンケートより)
《生徒》
 - ・我慢すること
 - ・友達との絆・信頼関係
 - ・友達のよさの発見
 - ・責任感
 - ・機敏な集団行動
 - ・責任を果たすこと
 - ・時間の使い方と時間を守ること

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

- 校内支援委員会を発足し、検討を重ね、第1学年主任を中心に、事業の推進にあたった。
- 宿泊体験学習に向けて、該当学年外職員のサポート体制を確立した。

(2) 成果等

- 外部機関との連携については教頭が主となり行ってくれた。
- 登校支援教諭・生徒指導主事も交代で生徒の相談活動等に従事してくれ、大変助かった。
- 計画には入っていない職員が毎日のように手伝いに来てくれて助かった。特に入浴・食事の時は大助かりだった。
- 管理職も毎日宿泊してくださったので、安心して事業を実施できた。学年の取り組みではあるが、多くの教師やPTA役員が係わってもらえると、さらに意義のあるものになっていくと感じた。

3 今年度の課題と次年度に向けての改善点

- 実施時期の選択幅の拡大
- 体験活動の十分できる日程の弾力化
- 学校での授業ではなく宿舎での授業の実施